

臨海小学校長
西沢 盛和

基本的にはこれまで通り、すべての子供一人一人にとって「今日が楽しく明日が待ち遠しい学校」を目指すことを基調としていきます。

子供たちが安心して楽しく生活し学べるように、そして、保護者にとっても安心して子供を登校させられるように、そんな当たり前の学校を目指します。

ポストコロナということで、これまで以上に、家庭・地域・学校の連携をより一層深められるように尽力していきます。

1 学校教育目標

「よく考える子」 ⇒ どの子にも「わかる・できる」の授業づくり

- ① 各教科における主体性を育てる指導を展開（理解面）
- ② 授業規律・学び方においても主体性を育てる指導を意識（態度面）
- ③ 授業を通して、どの子にも有用感を味わわせる

⑥「思いやりのある子」 ⇒ マイナス評価でなく、常に「プラス」の評価観

- ① 教師がやるべきことを教師がやる（指導・注意・指摘・チェック）
- ② 優しい言葉のあふれる学級、学年づくり
- ③ 学級、学年、学校の活動を通して、どの子にも有用感を味わわせる

「じょうぶな子」 ⇒ 運動機会をつくり、楽しく実践

- ① 遊び・活動を通した運動習慣づくり
- ② 給食指導を通した食育の推進、栄養士と連携した指導
- ③ 遊び、運動を通して、どの子にも有用感を味わわせる

2 学校教育目標の具現化のための重点項目

重点目標は「思いやりのある子」です。特に今年度の重点項目は「優しい言葉のあふれる学級・学年づくり」です。どの学年・学級においても、優しい言葉があふれ、どの子も安心して楽しく過ごせる学級・学年を目指します。

優しい言葉のあふれる学校にするためには、どんなことが起きようと、冷静で、穏やかで、「笑顔」を絶やさず、子供たちに安心感を与えられる、そんな人間性こそが、教員には大事だと思うのです。だからこそ今年度は、毅然とした指導とともに、常に「笑顔」で子供たちのよさを伸ばす指導を心掛ける教員集団を目指します。子供たちの「笑顔」が増えれば、おのずと「優しい言葉も増える」はずです。

今年度、特に考えたいのは、担任の意向や指示（係や当番）で、一部の子供が子供をチェックしたり、指示したりすることです。子供たちの上下関係が、様々な問題を引き起こし、問題を大きくしているように思うからです。子供を指導するのは教師の仕事であり、特定の子供がすべきことではないと私は考えます。子供同士は対等の関係であり、助け合い励まし合う仲間であるべきです。特定のリーダーをつくるのではなく、あらゆる場面ですべての子供がリーダーを経験することを通して、すべての子供がフォロワーシップを学び、自らの内にフォロワーシップの力を育んでいくことが小学校時代には大切なことであると私は考えます。それがゆくゆく本物のリーダーになる子供にとっても大きな基礎となるのです。

子供同士のチェックや指摘がなくなり、はげましや「笑顔」の学級に変われば、おのずと「優しい言葉も増える」はずです。重点項目の今年度の指標は、子供たちの「優しい言葉が増えたか」です。